東京工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	インターンシップ	
科目基礎情報						
科目番号	1174	科目区分	専門 / 必修			
授業形態	実験・実習	単位の種別と単位数	履修単位: 3			
開設学科	物質工学科	対象学年	4			
開設期	集中	週時間数				
教科書/教材						
担当教員						
到達目標						
企業、大学、研究機関等での実習または就業体験、地域貢献プログラムへの参加を通じて、これまでに修得した知識を活用し、技術の実際を修得し、今後の学習および自身のキャリアデザインに役立てる。さらに、技術者としての心構えや社会人としての自覚を養うことを目的とする。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安		
評価項目1	実際の企業人等との仕事を通して自身のキャリアデザインを明確化することができる。	企業等における技術者の実務を十分に理解できる。	企業等における技術者の実務を理解できる。	企業等における技術者の実務を理解できない。		
評価項目2	実習内容をセキュリティに配慮しながら簡潔にして十分な内容の報告書にまとめることができる。	実習内容をセキュリティに配慮しながら様式通りに報告書にまとめることができる。	実習内容を報告書にまとめることができる。	実習内容を報告書にまとめることができない。		
評価項目3	実習で学んだことをセキュリティに配慮しながら自身のキャリアデザインとして明確にプレゼンテーションできる。	実習内容をセキュリティに配慮しながら発表することができる。	実習内容を発表することができる。	実習内容を発表することができない。		
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	企業、大学、研究機関等での実習または就業体験、地域貢献プログラムへの参加等を通じ、学科の学習内容だけでなく企業活動の幅広さを体験する。また、実習の経過や学んだことを報告書にまとめ、学内で開催されるインターンシップ報告会でプレゼンテーションする。					
授業の進め方・方法	学生便覧に掲載されているインターンシップ規則および学生心得を十分理解して準備を行い、企業、大学、研究機関等での実習または就業体験、地域貢献プログラムに参加する。実習後は、実習の経過や学んだことを報告書にまとめ、学内で開催されるインターンシップ報告会でセキュリティに配慮しながら発表する。					
注意点	学生便覧に掲載されているインターンシップ規則及び学生心得を十分理解して実習に望むこと。またインターンシップが「修了」であることは卒業認定に必要な条件の一つとなっている。受け入れ企業は多くの労力を割いて学生を受け入れている。そのことに対する謝意を忘れず、社会人マナー習得中であるという謙虚な気持ちで参加すること。企業活動は企業ごとに独自性を持っているので、企業側の許可無く写真撮影・文書コピー・実習内容公開を行わないこと。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス・実習先の決定 (5月から6月)	学生便覧に掲載されているインターンシップ規則及び学生心得を十分理解する。		
		2週	実習先への諸手続	履歴書等書類の準備、受け入れの礼状作成、および送付等を行う。		
		3週	実習 (夏休み期間中)	実習先企業等において、定められた期間実習を行う。		
		4週	礼状の送付および実習報告書提出	実習先に礼状を送付する。また、実習で学んだことを報告書にまとめる。秘密保持の観点から必ず実習先企業の検印を受ける。		
		5週	インターンシップ報告会 (9月から10月)	実習で学んだことをセキュリティに配慮しながらわかりやすく報告する。		
			6週			
			7週			
			8週			
		2ndQ	9週			
			10週			
			11週			
			12週			
			13週			
			14週			
			15週			
			16週			
後期	3rdQ	1週				
		2週				
		3週				
		4週				
		5週				
		6週				
		7週				
		8週				

4thQ	9週		
	10週		
	11週		
	12週		
	13週		
	14週		
	15週		
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	3		
			日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	3		
			円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	3		
			円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	3		
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	3	前3
				自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。	3	前3
				その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。	3	前3
				キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。	3	前3
				これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。	3	前3
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。	3	前3
				企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	前3
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	前3
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	前3
				企業には社会的責任があることを認識している。	3	前3
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	前3
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	前3
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	前3
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	前3
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	前3
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げるができる。	3	前3
高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	前3				
企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	前3				
コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	前3				

評価割合

	実習	報告書	発表	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	50	25	25	0	0	0	100
基礎的能力	30	25	25	0	0	0	80
専門的能力	10	0	0	0	0	0	10
分野横断的能力	10	0	0	0	0	0	10